



「無医村」「無医地区」という言葉を聞くと、文字どおり読むと「医者がない村(地区)」ですが、専門的にはちよつと違いますが、「容易に医療機関を利用することができない地区」を「無医地区」と言います。たまた「医療アクセス困難地域」といった言い方をしますが、こちらの方が言葉の意味が分かりやすいかもしれません。

つまり住民目線で、医療の受けやすさ(この「受けやすさ」のことを「アクセス」と言います。「医療アクセス」は「医療の受けやすさ」

無医村に巡回診療?

よく地域医療を考えるときに、「無医村」「無医地区」という言葉を聞くと、文字どおり読むと「医者がない村(地区)」ですが、専門的にはちよつと違いますが、「容易に医療機関を利用することができない地区」を「無医地区」と言います。たまた「医療アクセス困難地域」といった言い方をしますが、こちらの方が言葉の意味が分かりやすいかもしれません。

つまり住民目線で、医療の受けやすさ(この「受けやすさ」

巡回診療、というのとはちよつと違いますが、砂漠に点々と村が点在して、村人たちはほとんどの場合、ラキダやロバで移動しています。また、基本的に村に医療機関はありません。つまり、車(一番人気はトヨタのランドクルーザーです)を使った巡回診療を行うことで、住民たちの医療アクセスを大きく改善することができます。

もちろん、毎日利用できる診療所を建てていくことも重要なのですが、広いスタンディングではどうしても診療所をたどり着くのが難し

巡回診療、というのとはちよつと違いますが、砂漠に点々と村が点在して、村人たちはほとんどの場合、ラキダやロバで移動しています。また、基本的に村に医療機関はありません。つまり、車(一番人気はトヨタのランドクルーザーです)を使った巡回診療を行うことで、住民たちの医療アクセスを大きく改善することができます。

もちろん、毎日利用できる診療所を建てていくことも重要な

巡回診療、というのとはちよつと違いますが、砂漠に点々と村が点在して、村人たちはほとんどの場合、ラキダやロバで移動しています。また、基本的に村に医療機関はありません。つまり、車(一番人気はトヨタのランドクルーザーです)を使った巡回診療を行うことで、住民たちの医療アクセスを大きく改善することができます。

もちろん、毎日利用できる診療所を建てていくことも重要な

巡回診療、というのとはちよつと違いますが、砂漠に点々と村が点在して、村人たちはほとんどの場合、ラキダやロバで移動しています。また、基本的に村に医療機関はありません。つまり、車(一番人気はトヨタのランドクルーザーです)を使った巡回診療を行うことで、住民たちの医療アクセスを大きく改善することができます。

もちろん、毎日利用できる診療所を建てていくことも重要な



砂漠を巡回診療

遠回り

《第18号》
認定NPO法人ロシナンテス 発行
〒802-0082
北九州市小倉北区古船場町1-35
北九州市立商工貿易会館 7F
TEL:093-521-6470
E-Mail:info@rocinantes.org
特定非営利活動法人ロシナンテス
ROCINANTES

巡回診療、というのとはちよつと違いますが、砂漠に点々と村が点在して、村人たちはほとんどの場合、ラキダやロバで移動しています。また、基本的に村に医療機関はありません。つまり、車(一番人気はトヨタのランドクルーザーです)を使った巡回診療を行うことで、住民たちの医療アクセスを大きく改善することができます。

もちろん、毎日利用できる診療所を建てていくことも重要な

巡回診療、というのとはちよつと違いますが、砂漠に点々と村が点在して、村人たちはほとんどの場合、ラキダやロバで移動しています。また、基本的に村に医療機関はありません。つまり、車(一番人気はトヨタのランドクルーザーです)を使った巡回診療を行うことで、住民たちの医療アクセスを大きく改善することができます。

もちろん、毎日利用できる診療所を建てていくことも重要な

巡回診療、というのとはちよつと違いますが、砂漠に点々と村が点在して、村人たちはほとんどの場合、ラキダやロバで移動しています。また、基本的に村に医療機関はありません。つまり、車(一番人気はトヨタのランドクルーザーです)を使った巡回診療を行うことで、住民たちの医療アクセスを大きく改善することができます。

もちろん、毎日利用できる診療所を建てていくことも重要な

事務局だより
こんにちは。北九州の最古参・宮崎です。ロシナンテスの活動も12年目に入り、私もいつの間にか7年目です。
これからロシナンテスは理事会を始め、新体制のもと新たな時代を迎えます。本紙でご覧いただいたように新しいスタッフも加入し、現在と未来、両方を見据えて活動を進めていける体制が整いつつあります。
このところ組織体制等に変化が多く、みなさまにはご心配もお掛けしているかと思いますが、変わるべき部分は変えることを恐れず、変えてはならない部分はしっかりと守りながら、活動を維持・発展させていきます。変化を成し遂げるには大きなエネルギーが必要です。みなさまのご支援、そしてご声援がこれまで以上に、私たちスタッフ全員の励みになります。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

私たちNPO法人ロシナンテスの名前は、小説「ドンキホーテ」に出てくるドンキホーテが乗る瘦せ馬のロシナンテに由来しています。「私たち一人一人は瘦せ馬ロシナンテのように無力かもしれないが、ロシナンテが集まり、ロシナンテエになれば、きっと何かできるはずだ!」と考え、「ロシナンテ」と名付けました。
今後もこれを信念として一歩一歩進んでいきたいと考えておりますので、皆さまのご支援をよろしくお願い致します。

ロシナンテス 応援企業

内科・外科・消化器内科・緩和ケア内科

医療法人 明気会
岩本クリニック
理事長 岩本拓也
北九州市小倉南区中興一丁目20-50
TEL 093-472-1281
FAX 093-472-6712

がんばれロシナンテス!

税理士法人
小城会計事務所
北海道旭川市東光8条1丁目1-1
TEL.0166-31-2313

内科/消化器内科/リウマチ科

柏木内科医院
院長 柏木 陽一郎
〒802-0064 福岡県北九州市小倉北区片野2-21-10
tel 093-921-7943 / http://www.kashiwagi-naika.com/

リラクゼーションサロン
Retreat リトリート
アロマオイルトリートメント(120分)通常13,000円
※遠回りご持参の方に限り、一回半額6,500円
〒802-0084 北九州市小倉北区香香口2-2-16
TEL 093-967-1166 営業時間/12:00~22:00

新しくロシナンテになったスタッフのご紹介
これから頑張るスタッフを今後もよろしくお願い致します。

スーダン事務所
スタッフ
令官 洋子

川原さんがその昔卒業された高校を卒業後、大学では国際文化・哲学を専攻、10年半勤務した民間企業を退職のち、日本で開発学を、英大学院でGlobal Healthを学んでまいりました。皆さまよりいただくあたたかいご支援を少しもむだにすることなく、組織運営のサポートをしております。どうぞよろしくお願い致します。

日本事務局
スタッフ
寺田美知子

大学で農業を専攻後、看護や保健を学び、病院看護師を経て、東日本大震災翌年からは宮城県女川町で保健師として3年間勤務しました。この度、キリバス、ソロモンでの青年海外協力隊の活動を終え、入職しました。長年のテーマである人と自然(環境や生老病死)の調和や文化多様性を大切にしながら、皆さまと共に「医」を築きたいと思っております。

日本事務局
スタッフ
切通 陽子

ロシナンテスの支援者リレーションズに仲間入りしました。切通です。まだまだ未熟なところが多いですが、一歩ずつしっかりと前に進んでいきたいと思っています。これからお電話や活動報告会など、支援者の皆さまとお会いする機会も増えてくると思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

領収書の年一回発送についてのお知らせ

下記の対象者の方には、一年分のご寄付(1~12月受領分)をまとめて記載した領収書を翌年1月に発送しております。2017年分は、2018年1月末までにお届け予定です。もしも予定日を過ぎてもお手元に届かない場合は、ロシナンテスまでご連絡ください。

対象者 ● 毎月ご支援いただいている方(クレジットカード・口座振替)
● 年一回発送をご希望の方

領収書についてよくあるご質問

クレジットカードで2017年11月に寄付をしました。2017年分の領収書が届きません。

A. クレジットカードでのご寄付の場合、各カード会社からロシナンテスへ入金されるのはご本人様の申込日の翌々日となります。

ご本人様 2017年11月にお申し込み ⇒ ロシナンテス 2018年1月に寄付金を受領

所轄庁の指導により、領収書に記載する受領日はロシナンテスへの入金日となります。そのため今回のご寄付は、2018年受領分となります。何卒ご了承ください。
※郵便局・銀行口座へのお振込は、振込日(金融機関の営業日による)が受領日となります。11月以降に年内中の領収書をご希望の場合はこちらをご利用ください。

東京に事務所を開設しました
ロシナンテスは団体設立以来11年間、福岡県北九州市に本部を置いて活動を続けています。日本国内の国際協力団体はほとんどが東京に本部を置いていますが、私たちは地方発の団体としてなごりながら、常に地方発の団体として活動を続けています。もちろん、これからもそれは変わりません。地方で生まれた団体であることは私たちの強みであると思っております。し、それを活かせる方法はきっとあると考えています。

これは、スーダンでの事業を日本から支えるためには、東京へ出なければならぬ機会が多くあります。外務省やスーダン大使館等の関係機関は東京にあるためです。また、活動をご報告するイベントを開催する際にも、多くの方々にお会いするには首都圏で開催することが必要です。

これまでは、このような場合にその都度九州から出張して対応してきましたが、常駐のスタッフがいない体制では、ロシナンテスでは以前から東京での事務所開設を検討してまいりました。2017年11月19日のロシナンテス臨時総会において定款が変更され、東京に事務所を置くことが決定しました。今後は「北九州本部」と「東京事務所」という、国内二拠点の体制で活動を続けて参ります。変わらぬご支援のほど、どうぞよろしくお願い致します。

クレジットカード追加のお知らせ

大変お待たせいたしました!皆さまからご要望いただいていた、ご寄付の際にお使いいただけるクレジットカードの追加が実現いたしました! これからは今までのVISAとMastercardに加え、JCB・AMERICAN EXPRESS・Diners Clubもお使いいただけます。

VISA MasterCard JCB AMERICAN EXPRESS Diners Club

ご寄付のお申し込みはロシナンテスのホームページから!
[トップページ] [活動を支援する]

ロシナンテス 検索

郵送でもお手続きいただけます。申込用紙をお送りしますので、日本事務局までご連絡ください。
ロシナンテスの活動は皆さまからのご寄付に支えられています。皆さまからのあたたかいご支援とご協力をお待ちしております!

ご不明な点等ございましたらお気軽にお問い合わせください

認定NPO法人ロシナンテス
TEL:093-521-6470(受付時間 平日10:00~17:00)
FAX:093-521-6471 info@rocinantes.org



しっかりと管理を行ったことで、特に支障なく毎月巡回診療を行うことができ(スーダンではこの「毎月行」が難しいです)、多くの住民に利用してもらうことができました。

次に、事業の成果ですが、様々なうち、ここでは2つ紹介したいと思います。乳児死亡の減少と住民の満足度向上です。前に書いたように、妊婦さんから赤ちゃんまで一連の流れをフォローしていく中で、お母さんと赤ちゃんの死亡数を把握

していくことができます。妊産婦死亡に関しては期間を通じて一例もありませんでした。乳児死亡に関しては、四半期ごとの数字をグラフ化したものが下図になります。全部でフォローした例が合計1695例です。科学的な正確性には限界があるのですが、それでも乳児死亡が明らかに減っているのが分かります。妊産婦死亡が最初からゼロで、乳児死亡が期間を通じて減っていることについて、どちらも医療の

質が影響するにも関わらずどうして違いが出るかを正確に説明することは難しいです。ただ、乳児死亡を避けるためにはお母さんの健康状態が良いこと、栄養状態が継続して良いことなどが関わってきます。乳児死亡を減らす方が妊産婦死亡を減らすよりも時間がかかるのはある意味自然、と言うことはできます。

成果の最後は満足度に関してです。巡回診療事業は、住民目線で地域の医療全体を向上させることを目的としていたので、住民の満足度も重視していました。しかし、この満足度、非常に難しい問題とされています。まずその背景から説明したいと思います。

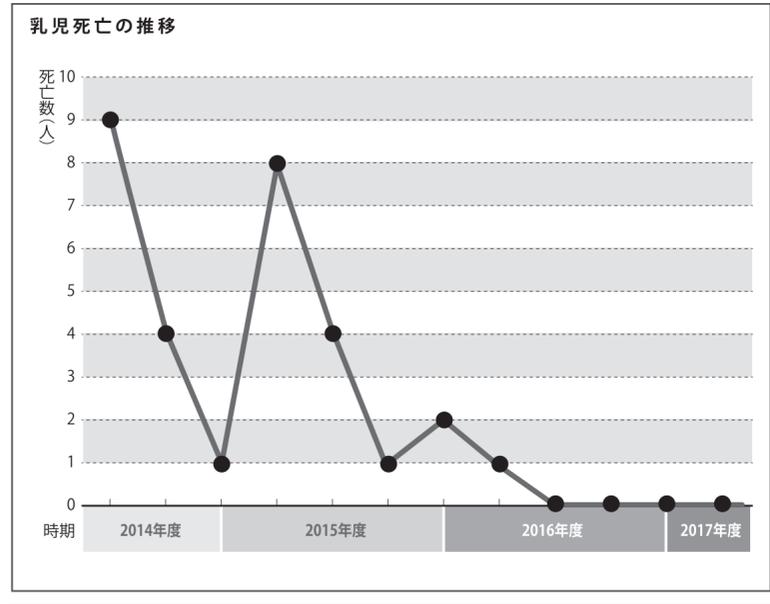
利用者の満足度はもちろん向上すればそれだけでうれしいものなのですが、医療を運営する側にとっても重要な意味を持ちます。住民が医療サービスに満足していなければ、なかなか病院や医療機関に寄りつかなくなってしまうからです。何もかんでも病院に行けばいいというわけではありませんが、体の問題があるのにどうせ何もしてくれないからと病院に来てくれないのは大きな問題です。また、住民が医療全体に満足することは、住民自身が前向きに保健の問題に取り組むことの基礎ともなります。

この満足度、評価するのはさらに難しいです。まず、そもそも満足度とは何でしょうか。

「病院に行ったら先生が話をよく聞いてくれて満足！」

「病院に行ったら先生がかっこよかったです！かわいかった！満足！」

医療に関わる感想の中には色々な満足があります。しかし、上の例で



「今後に向けて」

ロシナンテスの一番メインとなる事業について、ざっと説明させてもらいました。医療は一朝一夕でどうにかなるものではなく、またそれぞれの状況に合わせて進めていくことが非常に大事です。ハルツーム州保健省とは今後どのように事業を進めていくかも協議をしています。が、ともすると、政府職員は我々のゴールは先進国に負けない医療をスーダンで提供することだというような、(気概としては非常に尊敬できますが)現実的とはとても思えないようなことを本気で言った

りします。ロシナンテスは診療所建設を進める一方で、巡回診療も多くの地域で有効なのではないかと考えています。満足度調査では、巡回診療により医療レベルが上がったと住民が実感していることが分かりましたし、医療に対して前向きに考えるようになったとも言えます。

遠くから見放されたところにも出向いて行って、「医」を届けるといのはロシナンテスの原点です。それぞれの地域の実情はありますが、これからはスーダンの人々と話しながら、巡回診療がさらによくなるように頑張っていきたいと思っています。



巡回診療で
行ってきた活動

まず巡回診療の移動手段である車を確保することが非常に重要です。具体的には巡回診療に適した新しい車を買って(しつこいですが世界のランドクルーザー)、日ごろのメンテナンスにも力を入れました。何しろ砂漠で暑いので、フィルターやオイルの取り換えが必要になったり、酷使するエアコンが故障したり(エアコンが故障した車に乗るのはスーダン三大苦しみの一つです)といったことが頻りに起きます。車の確保は医療とは関係ないように思われるかもしれませんが、車が動かなければそもそも村に行けないので、常にちゃんと車が動くようにしておくことが重要です。

次に、巡回診療チームの編成です。ワッドアブサレレ区の巡回診療では、栄養担当(成長モニタリングを行います。身長体重を測定し、必要に応じて栄養を補助を増やして母子保健を充実させるとともに、一般診療、感染症などの一般的な病気の診療)もできるようなしました。メディカル・アシスタント(医師に準ずる職業、病気の診断、治療を行う)と検査技師(顕微鏡を使って細菌について検査を行います)をチームに加えたのです。チームメンバーは合計9人で、ドライバー、リ

ダー(チームをまとめる人)、メディカルアシスタント、検査技師、記録担当、ワクチン担当、妊産婦健診担当、栄養担当(2人)です。これらのスタッフは基本的に州保健省の職員で、普段は他の医療施設で働いていますが、巡回診療の期間はチームの一員としてワッドアブサレレ区で活動します。

このチームが、ランドクルーザーに乗り、村々を回ります。ワッドアブサレレ区には29の村があり、全ての村を回るのに10日〜2週間ほどかかります。それぞれの村では、大体2つのチームに別れて診療活動を行います。一般診療チームと母子保健チームです。メディカル・アシスタントと検査技師からなる一般診療チームは、スピーカーで広報しながら村の小屋を借りて診療を行います(村人にとって診療が行われることは喜ばしいことなので、特に騒音に対する文句は出ません)。具合の悪い人がスピーカーによるアナウンスを聞きつけ、小屋まで来て診療を受ける形です。一方母子保健チームは、車に乗ってそれぞれの家を回ります。母子保健の活動では、女性の妊娠が判明した後、産婦の産前産後健診、成長モニタリングなどが一連の流れで行われるので、巡回診療チームは行くべき家を把握しており、順番に回っていきます。ま

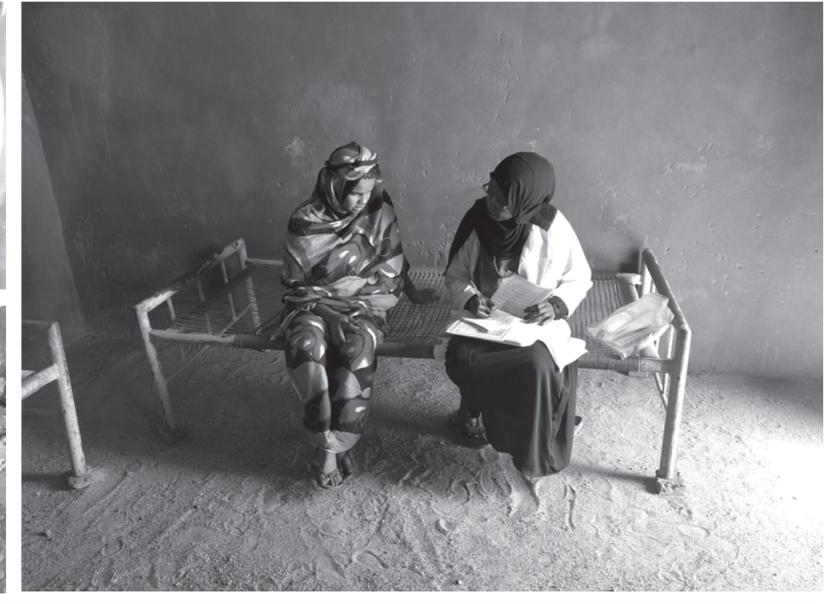
た、最初に妊婦さんにとりつくために村人からの情報収集が必要で、「妊娠した人がいたら教えてください」とこれまたスピーカーでアナウンスしながら村を回っていきます。さらに、コミュニティ・ミッドワイフは、専門性は高くないものの、普段から村に住んで地域の事情を把握しているのので、巡回診療チームもコミュニティ・ミッドワイフと情報交換しながら妊婦さんの漏れがないようにしていきます。

ロシナンテス職員による巡回診療スタッフへの技術指導もしてきました。車や医療機器の充実はまだしも、スタッフへの技術指導はソフト面での支援です。例えば、成長モニタリングにおいて、前に述べた体重計の読み方に始まり、記録のつけ方も指導が必要で、日本の母子手帳と同じように、成長記録カードというものを母さんが持つており、巡回した時に栄養担当スタッフが身長体重を測ってグラフに点を打っていきます。この「グラフに点を打つ」ということもそれなりに大変なようで、縦軸横軸とは何か?、ここからロシナンテス職員が巡回診療スタッフに教育を行いました。それ以外にも、月に一回はロシナンテス職員が実際に現場へ行って問題点を指摘したり、日本から母子保健専門の先生をお招きしてのワークショップを開いたり、様々な形で巡回診療スタッフに医療技術の教育を行っていききました。

また、巡回診療全体の記録をとるようにしたことも改善点の一つです。上で書いたように、記録を担当するスタッフが巡回診療のメンバーに入っています。この記録担当

スタッフは、ロシナンテス職員から渡された記録用紙を用い、それぞれの医療を何人の住民が利用したかを記録しています。この村ではワクチンを何人打ち、産前産後健診を何人受けた、といった形です。この記録には、妊娠関連の死亡(妊産婦死亡)、赤ちゃんの死亡(乳児死亡)も書いていきます。それぞれの村を訪れるのは1月に1回なので、出産の現場に立ち会うことはできません。しかし、妊娠発覚から妊産婦健診、妊娠が終わった後の子供の成長モニタリングとワクチン接種、というように一連の流れで見ているので、お母さんや赤ちゃんが死亡すれば把握することができるのです。

巡回診療活動
による成果



まず巡回診療でどれだけの人が診てきたかです。しっかりと記録をとれている、2014年10月から、2017年8月までの約3年間(正確には2年11カ月)の数字についてまとめたいと思います。この約3年間で、のべ5776人(月平均は約1600人)の住民に医療を提供しました。内訳は、一般診療が6209人、検査が3626人、ワクチン接種が12278人、成長モニタリングが24552人、産前産後健診(産前の妊婦さんの健診)が7411人、産後健診(出産後のお母さんの健診)が1700人です。また、前に述べたように、母子保健は妊娠から子供の成長まで一連の流れを追っていますが、フォローした例はこの約3年間で合計1695例です。月一回の巡回診療ですが、車のメンテナンスを含め、州保健省と共同で

ワッド・シユウエイ村診療所

クラウドファンディング

建設に至るまで



無医村地域に3棟の診療所を建設する「土とレンガの診療所プロジェクト」。

「シユウエイ」村の住民が協力しながら建設を進めてくれています。住民たちは皆、口を揃えて診療所の必要性を訴えており、自分たちの暮らす村の衛生環境が良くなるようにと、受け身ではなく、主体的に今回の診療所建設をサポートしてくれています。

チームへのアクセスが他の村よりも悪く、状況がより深刻なため、3棟目の建設地としてこの村を選びました。この地域では、首都から離れることはインフラから離れることを意味します。例えばワッド・シユウエイ村では水の問題も深刻で、住民たちは数キロ先にある溜め池の濁った水を生活用水として使いつつ生活しています。



2017年4月から6月にかけての60日間、ロシナンテスとして2回目となるクラウドファンディング

四輪駆動車が届きました

2017年4月から6月にかけての60日間、ロシナンテスとして2回目となるクラウドファンディングに挑戦しました。クラウドファンディングとは、インターネット上で支援募集を行う仕組みのことです。前回2016年に「土とレンガの診療所プロジェクト」のための資金を募集させていただきました。

ロシナンテスは現在、ハルツーム州と北コルドファン州の2つの州で活動を行っており、今回のクラウドファンディングでは、「スーダンの砂漠地帯に暮らす1万人に安全な水を届けたい!」というタイトルの、主に北コルドファン州で使用する四輪駆動車の購入費用を募集しました。500万円の目標金額を設定しましたが、最終的に722万

8千円のご支援が集まりました。改めてクラウドファンディングにご支援、ご協力いただいた皆様にご挨拶申し上げます。さて、スーダンでの活動において、この四輪駆動車は非常に重要です。私たちが活動するエリアは、ハルツーム州北コルドファン州のどちらにおいても市街地から100km以上離れた場所であり、道路も未舗装。砂漠が一面に広がる地帯です。一般の乗用車では移動することができません。四輪駆動車は、何をしても、四輪駆動車の「一足」になっており、四輪駆動車がなければ、私たちが提供できる活動も制限されてしまうのです。

診療所建設の進捗

2017年9月よりワッド・シユウエイ診療所の建設は始まりました。完成は同年12月末を予定しており、この遠回りが皆様のもとに届く頃には、レンガが積み上がり、診療所としてのカタチがほとんどできあがっていることと思います。

ワッド・シユウエイ村での診療所建設は、これまでの2つの診療所建設より多くの困難があります。まず、地理的に一番離れた場所にあるため、建設資材の輸送コストが高くなります。また水を得ることがとても難しいエリアなので、積み上げたレンガを固めるために必要な水の確保すら一苦労です。そんな過酷な環境の中でも、建設会社のエンジニアとワッド・

シユウエイ村の住民が協力しながら建設を進めてくれています。住民たちは皆、口を揃えて診療所の必要性を訴えており、自分たちの暮らす村の衛生環境が良くなるようにと、受け身ではなく、主体的に今回の診療所建設をサポートしてくれています。



北コルドファン州での活動について
現在北コルドファン州では、WFP(世界食糧計画)と現地NGOのSIDOと協働で栄養改善事業を行っています。今年10月に北コルドファン州を訪問し、事業の視察を行いました。栄養改善プログラムを提供している7つのヘルスセンターでは活動が円滑に行われており、診察に訪れていた赤ちゃん連れのお母さんも「とても助かっている」と仰っておりました。

私たちが今年12月に北コルドファン州へ再度訪問する予定です。現在は、パートナーNGOであるSIDOが栄養改善プログラムを新規導入するヘルスセンターと、井戸の新規掘削を行う候補となるエリアを選定しており、12月の訪



問の際には私たちもこれらの現場を訪問し、状況を確認するとともに、住民との対話を行う予定です。

مرحبا هناك

アッサラームアレコン!(アラビア語でこんにちは!)
スーダン駐在スタッフのアルタイプ苗です。
年中夏のスーダンもこの時期は涼しく過ごすることができます。最近ではアメリカからの経済制裁が解除されるなど、スーダンにも変わる雰囲気が出てきています。日本でも以前よりはスーダンの名前を耳にすることが多くなりましたでしょうか?
ロシナンテスはそんなスーダンでどのような活動をしているのか、この遠回りや各地での講演会などを通じて知っていただけたらと思います。

最初に活動を始めた川原尚行、ともに活動する日本人、スーダン人スタッフ、そして周りにスーダンの人々。

今回はスーダンで働くローカルスタッフ(スーダン人スタッフ)の

紹介を、私目線からしたいと思います。個性豊かなスタッフの

私たち日本人と共に毎日奮闘しています。

スーダンスタッフ紹介



インティサル・モハメド

彼女は巡回診療事業の担当をしています。特に重要な保健省とのやり取りや、その傘下である地域保健局との調整、さらに現場視察の際のアテンドや通訳、JICAなどの関係機関への提出書類の作成など様々な役割を担っています。体は中学生ぐらいの小さな女性なのですが、内に秘めるパワーには目を見張るものがあります。彼女はロシナンテスの以前の活動地であったガターレフ州出身なのですが、活動が終わって次のプロジェクトがハルツーム州で行われるようになってからは、彼女自身も家族と一緒にハルツーム州に移住しました。ご主人は活動地で出会った村人の男性で、3歳の女の子と、今年生まれたばかりの男の子と暮らしております。私は、インティサルは結婚前から「村人フェチ」だと踏んでいたのですが、予想通り村人と結ばれ幸せに暮らしております。



ラビア・ユニス

ロシナンテスの会計・総務を担当しています。日々の支出管理、会計監査のサポートなどが主な業務内容です。その他にも社会保険や車の車両保険などの管理部門も担当しています。自分の持ち場以外でもいろいろと助けてくれる頼れるスタッフです。ロシナンテス設立当初からのスタッフですが、一度退職した後、今年から復職し、ともに働いています。緊急の場合はいつでもサポートしてくれる我々の心強い味方です。明るい性格で、よく食べ、よく喋り、よく買い物をする女性です。元ロシナンテススタッフ(のちに大学教員に転職)のご主人がおり、4歳と7歳の男の子のお母さんです。最近体格が益々ふくよかになってきています。あ、また食べる話になりました。日本からスタッフやゲストが視察に来たときなどは自宅に招待してくれ美味しい料理を振る舞ってくれます。あ、またまた食べる話になりました。ロシナンテスの食隊長ラビアさんでした!

イブティサム・アルイマム

彼女はリエゾンという仕事を担っており、ロシナンテスと人道支援委員会、各省庁などとの繋ぎの仕事をしています。これはスーダンでは大変重要なポジションで、日本人スタッフの出入国手続や居住・労働手続、運転免許の取得サポートや各諸手続まで、すべて彼女の担当です。ラビアと同様ロシナンテス設立当初からのスタッフでしたが、一度退職し今年復職しました。彼女は交渉の達人! 特にスーダン人男性はなぜか彼女にイチコロです。なので日本人スタッフも交渉時にはイブティサムに同行してもらいます。しかし、特に女性らしく振る舞うわけではなく、チューインガムを食べながら交渉するときもあります。その姿は、まるで番長のような? プライベートでは双子の男の子と、その下に2人の子がいるパワフルママさんです。



イルハム・バシル

クリーナーで、ロシナンテス事務所のお掃除を担当してくれています。それ以外には皆でランチをとる際の料理も担当しています。仕事中にはタイミングよく紅茶やコーヒーをいれてくれます。英語が一切話せないなので、コミュニケーションは100%アラビア語です。日本人スタッフも彼女と話せるようになりたいとアラビア語を覚えます。スタッフの病欠なども時々ありますが、彼女が休むと事務所は一変します。食べるものがないのです。本当に縁の下の力持ち。大変貴重な存在です。ロシナンテスのお母さんと言いたところですが、独身で結婚相手を募集中です。(私が勝手に言っています)



イスマット・ヒュンメイダ

ロシナンテススタッフが移動する際の車の運転を担当しています。その他にすべての車両のメンテナンス、巡回診療車のメンテナンス、さらには事務所内の電気の修理やプロパンガスが切れたときの交換、食料の買い出しなど様々なサポートをしてくれる、ロシナンテスのお父さんです。実は40歳なのですが、老けて見えるのがたまにキズ。スーダンに来た日本人ゲストに何歳に見えますか?と聞いたところ60歳ぐらいですか?と聞かれていました。え?もうすぐ定年?いえいえ、まだまだ現役で頑張っています! プライベートでは5人のパパ。携帯電話が大好きでとても詳しいです。そして密かによくセルフフィーを撮っています。

このように5人の楽しいスタッフに囲まれ、日々ロシナンテスは奮闘しています。皆さまとスタッフの距離が少しでも近くなり、もっとロシナンテスの活動に興味を持っていただけたらと思います。現地スタッフをご紹介します。

